

リスクと価値の世界観

地域文化にもたらす自然の恵みと災い — 多様な事例と視点から、未来社会をデザインするための「リスク」と「価値」をどう捉えるかという世界観を議論する。

2026年9月3日(木) 9:30～12:30

参加無料 オンライン開催(事前登録制)

事前登録先: <https://forms.gle/vEz472d2bvqzC2rJ9>



プログラム

9:30-9:40

開催趣旨 谷口真人(総合地球環境学研究所)

9:40-10:00

谷口真人(総合地球環境学研究所)
「リスクと価値の世界観」

10:00-10:20

高橋そよ(琉球大学)・齋藤直輝(産業技術総合研究所)・井口亮(産業技術総合研究所)
「琉球弧の民話データから読み解く水資源リスクと生存戦略」

10:20-10:40

古閑麻央(京都大学・院生)・深町加津枝(京都大学)・吉田丈人(東京大学)
「吉野林業地における割箸産業の価値と社会課題」

10:40-11:00

新城竜一(琉球大学)・友尻大幹(総合地球環境学研究所)
「石垣島におけるサウンドスケープ・モニタリング
— 生物多様性保全と農的環境の価値・リスクの可視化に向けて —」

11:00-11:10 休憩

11:10-11:30

遠藤崇浩(立教大学)・柿本貴志(埼玉県環境科学国際センター)・谷口真人(総合地球環境学研究所)
「伝統的な地域井戸の防災活用—広島県尾道市を例に—」

11:30-11:50

柿本貴志(埼玉県環境科学国際センター)・遠藤崇浩(立教大学)・谷口真人(総合地球環境学研究所)
「地域社会を支える水の価値—令和6年能登半島地震被災地調査からの考察」

11:50-12:30

総合討論

会場: THE BLOOM UENO(ザ・ブルーム上野)



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構



開催趣旨

人間文化研究機構 広領域研究「地域文化」の地球研ユニットでは、地域文化にもたらす自然の恵みと災いを、様々な視点からこれまで議論してきた。これらの議論の根底には、地球環境の変動と社会変容のもとで、連環する自然環境と分断されがちな人間社会を、どのように持続可能な地球―地域社会として構築するのが基本課題としてある。

国際的なフレームでは、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が、主に気候変動に対するハザード・暴露・脆弱性の視点からリスクを捉え、災害分野などへの適用も行われている。またWorld Economy ForumのGlobal Risk Reportでは、地政学的、経済的、技術情動的、環境的、社会的の5つの視点から、短期と長期のリスクが毎年評価されている。

一方、IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）は、これまでの生態系サービスの評価からフレームを拡大させ、価値（バリュー）アセスメントやネクサスアセスメントを公表しており、人から見た自然の価値の3分類である「道具的価値」「内在的価値」「関係価値」と、4つの世界観「自然により生きる」「自然と共に生きる」「自然の中で生きる」「自然として生きる」を提示している。

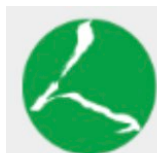
日本をはじめとして世界各地で進む「少子高齢化」は、災害や脱成長（degrowth）、beyond GDP、wellbeingとの議論とも相まって、現在のそして未来の大きな社会課題の一つである。またこれは、過疎化と都市化、移民と移住の課題にも直接つながり、緊急かつ継続的な対応が求められている。

レジリエントで持続可能な未来社会をデザインする際の両輪は、将来のポテンシャル（可能性）としての「リスク」と「価値（バリュー）」であり、本会議では、このリスクと価値をどのように捉えるかという世界観を、様々な事例をもとに議論する。

人間文化研究機構 広領域連携型基幹研究プロジェクト

「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」

地球研ユニット：自然の恵みを活かし災いを避ける地域文化研究



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構



Research Institute for
Humanity and Nature

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所